



ニュース 2022年

1

月号

発行日： 2021年 12月 24日
発行者： カトリック横須賀三笠教会
TEL： 046-823-0042
FAX： 046-823-1031

e-mail : mikasa-church@aqua.ocn.ne.jp



はつもうで しゅじつ
初詣と主日のミサ



みかさ きょうかい しゅにんしさい はまさきまさ み
三笠教会 主任司祭 浜崎眞実

しんねん はつもうで しょう じんじゃ
新年に「初詣」と称して神社を
さんばい さいせん な て
参拝して賽銭を投げ入れ、手をあわ
にほん でんとう
せるのが日本の伝統のように
おも しゅうかん
思われていますが、その習慣は
ほどふる
それ程古いものではないようです。そ
きげん れきし ふ
の起源や歴史には触れないで、カトリ
きょうかい たいせつ
ック教会が大切にしている「ミサ」と
くら
比べてみます。

もの もの
< ささげ物とみつぎ物 >
しゅうきょう なん さいぎ
どの宗教にも何らかの祭儀があり
め み せかい
ます。目に見えない世界とのつながり
め み ぎしき ともな
のために目に見える儀式が伴うのは

しゅうきょう きょうつう
宗教には共通のことです。カトリック
きょうかい かんしゃ さいぎ
教会では「感謝の祭儀」とも
い
言われるミサにあたります。そのミサ
ほうのう こうい つづ
で「奉納」という行為とそれに続く
き がん ほうけんぶん はつもうで じんじゃ
祈願(奉献文)と初詣において神社
さいせんぼこ かね な て
の賽銭箱にお金を投げ入れて手を
あ いの こうい けいたい
合わせて祈る行為とは形態としては
おな うつ ちが
同じように映ります。しかし違いもあ
しゅつぱつてん こと
ります。それは出発点が異なっている
さいせん な いの
ことです。すなわち賽銭を投げて祈る
こうい こじん がんぼう ねが ごと きてん
行為は、個人の願望や願い事を起点
じんじゃ さいせん な
とします。神社で賽銭を投げ入れて

きとう むびょうそくさい かない
の祈禱は「無病息災」や「家内
あんぜん しょうばいはんじょう
安全」とか「商売繁盛」などを
ねが にんげん がわ しゅつぱつ
願いますが、人間の側から出発し、
さいせん な こ かね
賽銭として投げ込まれたお金は、
みづか あんぜん ゆた きょうじゅ
自らの安全や豊かさを享受するた
めんこうとうし い み あ はっせい
めの先行投資の意味合いが発生し
べつ い かつ
ます。別な言い方をするなら、
な い かね いちねん
投げ入れるお金はこれからの一年の
じぶん あんぜん ほけんきん
自分の安全のための保険金あるいは
もの やくめ は
「みつぎ物」のような役目を果たすこ
とになります。その結果として、神さ
みつ がく おう べんぎ はか
まは貢いだ額に応じて便宜を図る
あくだいかん せんざい
「悪代官」のような存在にもなりかね
きとう がわ みづか
ません。祈禱する側は、自らは
か かみ ちから りょう
変わることなく神さまの力を利用し
じぶん がんぼう かな
て自分の願望が叶うかどうか
かんしんじ かみ
関心事になります。そこで神さまは
さいせん がく つ あ ふ ま
賽銭の額に釣り合うように振る舞う
ようきゅう はつもうで さいせん
ことを要求されます。初詣や賽銭を
な い こうい もんだい
投げ入れる行為そのものが問題なの
こうい
ではありません。そのような行為によ
あいて かんけいせい
って相手との関係性がどうなるのか
かみ じゅう そくばく
です。神さまの自由を束縛すること
きけん
になる危険があります。ナザレのイエ

さ しめ かみ にんげん がんぼう
スが指し示した神は人間の願望によ
そくばく
って束縛されるものではないからです
しょう せつ しゅつ しょう
(ヨハネ 1章 18節、出エジプト 3章
せつさんしょう
14節参照)。

もの
<ミサでのささげ物>

たい しゅじつ
それに対して主日のミサでは
ほうのう しゅ
「奉納」としてパンとぶどう酒そして
けんきん むしょう かみ
献金があります。それは無償で神さ
あた むぎ み
まから与えられた麦とぶどうの実に
にんげん はたら くわ
人間の働きを加えてパンとぶどう
しゅ けんきん せいぎ じっせん さい
酒にし、献金も正義の実践として祭
だん
壇にささげます。そしてそれが「キリス
からだ おなじ
トの体」とされ、同じ「キリストの
からだ よ たみ
体」と呼ばれる民がみんな
わ あ た の
分かち合って食べて飲むのです。ミサ
もの きてん かみ
におけるささげ物の起点は神さまで
むしょう かみ おく もの
す。無償で神から贈り物として
あた もの
与えられたものです。ささげ物を
た の
「食べて飲む」のがミサです。それは
こだい しゃかい おこな
古代オリエント社会で行われていた
けいやくていけつ ぎしき みなもと
契約締結の儀式に源があります。
こだいせかい けんりよくしゃ おうせい
古代世界では権力者(王制)による
しゃかいこうぞう かみがみ せかい とうえい
社会構造を神々の世界に投影した
ものがたり けんりよくしゃ しはい
物語によって権力者による支配が

せいとうか とっけん
正当化されてきました。特権をもつ
もの つごう ちつじょ いじ
者に都合のいい秩序が維持されるの
です。それは「人間は神々の奴隷とし
て造られた」という物語（神話）に
縛られたものです。

じょうきょう かみ けいやく むす
そのような状況で神と契約を結ぶ
ことよくあつ かいほう めざ いちぐん
で抑圧からの解放を目指す一群
あらわ しゃかいそう
が現れました。ヘブライという社会層
ひと あと こだい
にある人たちです。後に古代イスラエ
ルたみ よ
の民となります。この世のものを
ぜったい しい ひしはい
絶対とすることなく、支配と被支配
かんけい じゆう たが たいとう
の関係から自由になり、互いに対等
びょうどう しゃかい あ かた もさく
で平等な社会の在り方を模索し
お もと あゆ
追い求めたのです。しかしその歩みは、
かみ しめ みち はず けいやく
いのちの神が示す道から外れ、契約
そむ けっか くに
に背くものでした。その結果、国は
ほろ そむ れきし
滅んでしまいました。その背きの歴史
ひてい まちが きょうゆう
を否定することなく、間違いを共有

こっかさいけん ぶんしよ へんさん
して国家再建の文書として編纂され
たのが聖書（旧約全書）です。それは
せいしよ きゅうやくぜんしよ
また古代世界で常識となっていた
こだいせかい じょうしき
「神々の奴隷」という人間観を
かみがみ どれい にんげんかん
乗り越えるものです。

みかさきょうかい よこすか まち はけん
三笠教会は横須賀の街に派遣さ
れていいます。その意義はどこにあるの
いぎ
でしょうか。神さまの前では全ての人
かみ まえ すべ ひと
が等しく尊い存在であることを確認
ひと とうと さんざい かくにん
し、その社会を目指して奪われた
しゃかい めざ うば
人権を取り戻す働きを分かち合い、
じんけん と もど はたら わ あ
生かされてあるいのちを生きている
い い
ことを共に祝うのがミサでしょう。
とも いわ
かみだの かみ とも
「神頼み」ではなく「神と共に」
い しゃ しゃかい
生きるキリスト者として、社会とのつ
ながりのあるものとして主日のミサを
しゅじつ
たいせつ
大切にしたいものです。



きょうかいいんかい
12月の教会委員会

かいさい きょうかいいんかい ほうこく
12月5日(日)に開催された教会委員会の報告です。

てんれいれき ぎょうじ
I. 典礼暦と行事

- ふくいんせんきょうぶかい
12月 4日(土)福音宣 教部会
- たいこうせつだい しゅじつ
5日(日)待降節第2主日
- むげんざい せい さい
8日(水)無原罪の聖マリア(祭)
- たいこうせつだい しゅじつ
12日(日)待降節第3主日
- こうざ まな なお はまさきし
講座「学び直しセミナー」(浜崎師)
- たいこうせつだい しゅじつ
19日(日)待降節第4主日
- こうざ で あ もりやまし
講座「ナザレのイエスに出会う」(森山師)
- しゅ こうたん やはん
24日(金)主の降誕(夜半)
- しゅ こうたん にちちゅう
25日(土)主の降誕(日 中)
- せいかぞく しゅく
26日(日)聖家族(祝)

2022年

- かみ ははせい さい
1月 1日(土)神の母聖マリア(祭)
- しゅ こうげん さい
2日(日)主の公現(祭)
- ふくいんせんきょうぶかい
8日(土)福音宣 教部会
- しゅ せんれい しゅく
9日(日)主の洗礼(祝)
- しんせいじん いわ
新成人のお祝い
- てんれいぶかい
典礼部会
- ねんかんだい しゅじつ
16日(日)年間第2主日
- こうざ で あ もりやまし
講座「ナザレのイエスに出会う」(森山師)

ねんかんだい しゅじつ
23日(日)年間第3主日

こうざ まな なお はまさきし
講座「学び直しセミナー」(浜崎師)

ねんかんだい しゅじつ
30日(日)年間第4主日

ほうこくじこう
II. 報告事項

あたら ごぞう
1. 新しい御像

たいこうせつだい しゅじつ せいどうない こうたん ごぞう
12月12日(日)待降節第3主日から聖堂内にご降誕の御像、
しんとかんろうか なかにわ む ごぞう かざ
信徒館廊下に中庭に向けてクリスマスの御像セット(プレゼピオ)を飾りました。

きょうかい しせつ せいりせいとん
2. 教会の施設の整理整頓

せいどう しんとかん かい かい へ や だいどころ ものおき そうこう
(聖堂、信徒館1階と2階の部屋、台所、物置、倉庫等)

きょうかいない びひん ぶつびん ふようひん せんべつ
教会内のすべての備品・物品をチェックし、不用品を選別。9月より

かてい しげんかいしゅう だ しんと みなさま ぶんたん も かえ
家庭からゴミや資源回収として出せるものは信徒の皆様に分担して持ち帰り

しよぶん
処分をしていただきました。

いがい おおがた ふようびひん ぶつびん こんげつぎょうしゃ はいき いらい
それ以外の大型の不用備品・物品は今月業者に廃棄を依頼しました。

おおぜい しんと みなさま きょうりよく
多勢の信徒の皆様にご協力をいただきありがとうございました。

じかいきょうかいいいんかい
次回教会委員会 2022年1月9日(日)11:15から

い かた いっしょ まな
イエスの生き方を一緒に学びませんか

なかお こ
アグネス 中尾のり子

ひょうめんてき ゆた い ほんとう
表面的に豊かに生きることより本当に
い なん こども もと
生きるとは何だろうと子供ながらに求めて、
あに みかさきょうかい き
兄のすすめで三笠教会に来て、イエスの
い かた わたし い みち しん さい
生き方こそ私の生きる道だと信じて15歳
せんれい う ねんあま
で洗礼を受けました。そこから60年余り
みかさきょうかい かよ つづ なんかい
三笠教会に通い続けています。何回か
きょうかい みりよく かん とき
教会に魅力を感じられない時がありました
が、そのたびに良いグループに出会い、イエ
い かた まな なお
スの生き方を学び直すチャンスを得ました。

いま はまさきしんがさま もりやましんがさま
今また浜崎神父様や森山神父様の
べんきょうかい さんか すこ くも は
勉強会に参加して、また少し雲が晴れてイ
み ごろ
エスが見えてくるというこの頃です。

ふくいんせんきょうがかい なまえ す
福音宣教部会という名前はあまり好き
ではないのですが、その目指すところは、私
せんれい う いらいめざ
が洗礼を受けて以来目指していることだと
おも きょうかい みなさま
思います。そして教会にいらしている皆様
おな もと ひびい どりよく
も同じように求めて日々生きようと努力して
いられると思います。

きゅうやく たみ つた つづ かみ
旧約のイスラエルの民が伝え続ける神
ひとびと よ そ
は、しいたげられた人々にどこまでも寄り添

かみ かみ
ってくださる神だけです。イエスもその神を
しめ つづ
示し続けてくれました。

わたしたち じぶんじしん そそ かみ あい
私達は自分自身に注がれる神の愛にど
きづ きせつ
れだけ気付いているのでしょうか。この季節、
あか きいろ おぼ うつく いちにち
赤や黄に色づく落ち葉の美しいこと「一日
か の はな えいが きわ
にして枯れてしまう野の花も栄華を極めた
とき はな ひと
時のソロモンでさえこの花の一つほどにも
きかざ がた
着飾っていなかった。ましてあなた方に
たい
対してはなおさらのことである(ルカ 12・
ことば むね し
27~28)。イエスの言葉が胸に沁みます。

じぶんじしん なか きょうわたし であ
自分自身の中に、そして今日私が出会う
すべ ひと なか かみ あい かん
全ての人の中にこの神の愛を感じとりたい
ふくいんせんきょう
ものです。それが福音宣教ではないでしょ
うか。

わたし なか はたら かた
私の中に働いてくださる方をよくよ
み しず ほう みみ かたむ
く見て、静かにその方に耳を傾けたいと
おも
思います。

いま わたしたち みかさきょうかい よろこ
今、私達の三笠教会はこの喜びを
きょうゆう わたしたち しんがさま
共有しているでしょうか。私達は神父様
はなし き う み
の話 を聞くだけの受け身になっていないで
しょうか。

いま よこすか なに
イエスが今、この横須賀にいらしたら何を
よこすか なか お
するでしょうか。横須賀の中で追いやられ、
こえ だ ひとびと わたしたち ひとびと
声も出せない人々、私 達はその人々に
むかんしん
無関心でよいのでしょうか。

はまさきしん ぶさま い いま しゃかい
浜崎神父様が言われるように今の社会
か どりよく もと
のしくみから変える努力が求められているの
でいいのでしょうか。ご一緒に私 達と共に
はたら さが
働い てくださいるイエスを探してみませんか。

ふくいんせんきょうぶかい みなさま さんか ま
福音 宣 教 部 会 は 皆 様 の 参 加 を お 待 ち し
て います。



ふくいんせんきょうぶかい 福音 宣 教 部 会 当 面 の スケジュール

ぶかい
部 会 の 1 か 月 の スケジュールをあらためてお知らせします。
みな さんか ま
皆 さん の 参 加 を お 待 ち し て います。

① セミナー・講座

はまさきまみ し まな だい にちよう じ だい にちよう
浜崎 眞実 師：「学びなおしセミナー」第 2 日 曜 11 時 から ※1 月 の み 第 4 日 曜
もりやましんぞうし であ だい にちよう じ
森山 信三 師：「ナザレのイエスに出会う」第 3 日 曜 11 時 から
りょうほう かくじ じぶん せいしょ じさん
両 方 と も 各 自、ご 自 分 の 聖 書 を ご 持 参 ください。

② 部会の全体会、グループ会合

かくつきふくいんせんきょうぶかい だい どのよう じ じ
各 月 福 音 宣 教 部 会：第 1 土 曜 10 時 ～ 12 時

ぶかい つきべつ ぜんたいかい さんかじゆう
(部 会 の 月 別 の 全 体 会 で す。参 加 自 由 で す。)

ふくいんか うちあわ だい にちよう じ
福 音 化 グループ 打 合 せ：第 4 日 曜 11 時 から

てんれい きょうかいぎょうじ だ さんかじゆう
(「典 礼 と 教 会 行 事」に スケジュール は 出 し ま せ ン が、参 加 自 由 で す。)

ふ かえ
2021年を振り返って

こう ほう くりはら こ
広 報 栗原るみ子

いつもみかさニュースをご愛読いただき
まして本当にありがとうございます。2021
年も去年に引き続きコロナ禍の中で終わ
うとしていきます。マスクを付け、手を消毒し、
うがいをする習慣が当たり前の日常とな
りつつありますが、新しいウイルス株が
登場したり感染者数が増えるたびに、
教会でもミサの人数制限、座席の間隔を
あけるなどして、感染予防対策がなされて
きました。この習慣で良かったことは、マ
スクを付けているおかげでこの2年間カゼを
ひかずインフルエンザにも罹らずに済んでい
たことでしょうか。

コロナ禍で世間に充満したもののひとつ
にオンラインサービスがあります。三密をさ
けるためには格好の通信手段だと思えます。
ウイルス対策だけでなく、IDとパスワードが
わかれば、到底会うことがかなわない遠くの
人達と画像を通じて会うことができます。

交通費も時間もかからずとても便利です。し
かしこのオンラインサービスは視覚と聴覚
だけで通信するので、信頼感が薄いように
感じます。やはり五感を伴ってじかに会う方
が馴染みは良く安心なのですが、なかなかす
べてを満たすやり方はないもので、初対面
の人の場合は双方が一度じかに会う機会を
持ってからオンラインで通信するなど、工夫
が必要かと思いました。

さまざまなかで人との世相は
変わっていきます。来年はどんな一年にな
りますでしょうか。引き続きみかさニュース
をご愛読いただきますようよろしくお願いい
たします。
皆様のご健康とご多幸をお祈りいたしま
す。